

## 2022年度あさみどりの会共同生活援助事業所の概要（4月1日版）

### 1 法人の共同生活援助事業所

社会福祉法人あさみどりの会では、現在2成人施設（名古屋市、愛西市）がバックアップ体制の中、2生活共同援助事業所12ホーム68名の方が生活されています。

2つの事業所での運営方法は必ずしも同様な形態をとっているものではありませんが、共通する主な特徴として12のうち2ホーム以外は全て週末帰省型。建物、土地1ホームを除き全て法人所有（各施設の自立を援助する父親の会の資金積立及びその家族の利用）。本人、家族が家庭での生活が困ってからホームの生活をするのではなく、本人、家族が元気なうちに親亡き後でも、地域で生活を続けられることを目的にして、学習、共同作業、共同貯蓄などを通じた全国でもあまり例を見ない、予防型の運営形態をとってきました。

しかし、その取り組みを始めてちょうど40年が経過して、本人、家族、そして障害者福祉制度の状況が大きく変化する中で、全国のグループホームの大きな課題の一つでもある（本人及び家族の）高齢・重度化は当法人でも同様に起きています。

また職員体制では、法人全体でみると1ホームに1名近くの正規職員の配置を行っていて、全国的にみてもかなり厚い職員体制状況があります。しかし今後安定した運営や上記の高齢・重度化に伴う体制及び体制整備と人材確保及び育成について法人全体で情報を共有しながら、養成講座や見学会の実施等、実践の中で試行錯誤しています。

また法人（ホーム）が大きな規模になりお互いの顔が見えない状況と地理的にはそれぞれの事業所が離れていることもあり、2020（令和2）年10月にみよし市にあるわらび共同生活援助事業所他は別の法人（あさみどりの風）として独立しています。

また法人の短期中期計画の中で、べにしだの家から2023（令和5）年にあらくさ作業室の事業所独立計画（少し実施が遅れています）に伴い、べにしだ共同生活援助事業所の2ホーム（あらくさの家、神田ホーム）も新事業所に独立を予定。またその後、べにしだの家の障害者支援施設（入所）を全てグループホームに転換する計画があり、そのための体制整備等を進めています。

### 2 各共同生活援助事業所の概要（入居者）

#### (1) べにしだ共同生活援助事業所（名古屋市中村区、千種区）区分5.1 年齢44.6 居住13.8

ホーム名	定員	男性	女性	開設年	認可年
ゆうゆう	4	2	2		2006（平18）
こがもホーム	5	3	1	2007	2002（平14）
ながおさホーム	7	7	0	1998	1999（平11）
あらわいの家	7	7	0		2003（平15）
いなばじホーム	7	1	5		2013（平25）
あらくさの家	6	5	0		2004（平16）
神田ホーム	7	0	6		2005（平17）
	43	25	14		

#### (2) れいんぼう共同生活援助事業所（愛西市）区分4.9 年齢35.5 居住11.7

ホーム名	定員	男性	女性	開設年	認可年
虹の家	6	4	2		2005（平17）
虹の家Ⅱ	4	4	0		2008（平20）
虹の家Ⅲ	7	0	6		2011（平23）
虹の家Ⅳ	7	7	0		2011（平23）
虹の家Ⅴ	6	6	0		2014（平26）
	30	21	8		

## (3) 法人全体 (べにしだ・れいんぼう) 区分 5.0 年齢 40.7 居住 12.9

	定員	男性	女性		
全体	73	46	22		

## 3 各共同生活援助事業所の概要 職員人数は4月現在

## (1) べにしだ共同生活援助事業所

	総員	男性	女性
正職員	8	3	5
有期契約職員	31	7	24
(うち学生)	3	2	1

## (2) れいんぼう共同生活援助事業所

	総員	男性	女性
正職員	5	4	1
有期契約職員	25	6	19
(うち学生)	0	0	0

## (3) 法人全体

	総員	男性	女性
正職員	13	7	6
有期契約職員	56	13	43
(うち学生)	3	2	1

## 4 ホーム利用にかかる費用 (2018.4、2021.4 家賃見直し)

	利用料金 (円)	備考
家賃	べにしだ・れいんぼう 35,000	修繕費含む (国助成1万円)
光熱水費	べにしだ 12,000 れいんぼう月額2,500+日額440×利用日数	
日用品費	べにしだ 1,000 れいんぼう月額500+日額60×利用日数	
教養娯楽費	べにしだ、れいんぼう 企画ごとに個別精算 翌月請求	
食費	べにしだ (1食) 朝200、昼・夜400 れいんぼう (1食) 朝250、昼・夜400	本人都合キャンセルした場合も徴収